

今日も良い天気ですね。皆さん気持ちよく朝起きていますか。

昨日、録画していた『ほたるの光 ～私の…逆転シュート～』という番組を見ました。現在 22 歳のほたるさんの話です。彼女は 16 歳の時、突然、多発性硬化症という病に侵されます。それまで元気に過ごし、将来はバドミントンの選手になることを夢見ていた女の子です。ある日突然足が動かなくなり、入院して 2 日後に車いす。人の名前も忘れてしまう。忘れないようにと家族が写真に名前を書いておきました。それまで元気に生活していたのに。突然の病気をなかなか受け入れられなかった彼女が 18 歳の時「車いすバスケット」に出会い、それに打ち込みます。高校卒業後、兵庫県の専門学校に通うため一人暮らし。自分でなんでもやっていました。車の運転も。そして昨年「車いすバスケット」日本代表選手として活躍しました。いつでも彼女は笑っていました。笑顔で自分の生活を見せてくれました。唯一涙を見せたのは、彼女の妹が「ほっちゃん(ほたるさん)の前では泣かないように、みんなで決めてたんだ」と話した時だけでした。進行性の難病なので、だんだん悪くなっていきます。怖いと思います。でも彼女は笑って「バスケットを始めたときは、もっと体動いていたよね。体幹も強かったし。」と笑って話します。

こんなに大変な病気なのに、なぜこんなにも笑顔でいられるのだろう。不思議でなりません。それは打ち込めるものができたからでしょうか。彼女の持っている天性のものでしょうか。私は彼女が「今を精一杯一生懸命生きている」からだと思います。

彼女の合言葉は「**笑顔で明るく前向きに**」だそうです。これを毎日言い聞かせているから、自然な笑顔も出るのだと思います。

そして彼女は言っていました。「**どんなことにも負けない自分が大好き**」
こう言い切れる彼女、素敵で憧れます。

この 4 月から岡山で働いているそうです。

「がんばれ！」心からエールを送ります。

ちなみに彼女は私と同郷です。

七中生へのメッセージ（4月14日）

春といえば、みなさんどんなことを感じ・思い、考えますか。

きっと「新しいことにチャレンジしよう」「今年はこれを頑張ろう」など気持ちも新たに新学期を迎えたのでは？と思います。しかし、今年自宅での待機が長く続き、ちょっと気分も下がり気味…という人もいるのでは。

でも、この臨時休校をゆとりの時間、スタートのための準備と思い大切に過ごしてください。なかなか外出もできないでしょう。でも、窓の外をみてください。青空が広がり、植物の新芽はやわらかな緑色をしています。そしていろいろな花が咲き始め、町は色鮮やかでカラフルになり始めています。空を見上げると、昼間なのに月が出ていることもあります。月が見えるのは夜だけではなくありません。実は、先日の登校日は満月でした。そして5月7日の登校日も満月です。この臨時休校中、月は形を変え、空に昇る時間も変わります。ぜひ、観察してみてください。忙しい毎日では、なかなか気が付かない自然の変化にぜひ目を向けて、心豊かに毎日を過ごしてください。元気な皆さんにあえる日を楽しみにしています。

1～3年理科担当

七中生へのメッセージ（4月15日）

私たち大人も体験したことのない未知のウィルスとの闘い。

映画や小説の世界で描かれていたことが、現実の世界でおきている。

今の事態を克服するのに、どのくらいの時間を要するのか分かりません。

先の見通せない不安感があるのも確かです。

しかし、朝の来ない夜はありません。

裏山の木々も、柔らかな新芽を日ごとに伸ばし、季節は着実に巡っています。

日々の小さな積み重ねを大切に、このピンチを乗り越えていきましょう。

そして、「うがい・手洗い」と規則正しい生活を、お互いにキープしていきましょう。

ところで、「歴史は繰り返す」と言いますが、人間の心も行動も同じような気がします。

感染症という目に見えない災害に襲われた時に、人は何を考え、どう行動したのか。

過去の感染症の歴史を調べてみることで、今の私たちの心の持ち方や行動に、何か生かせることはないだろうか。興味のある人は、調べてみてください。

（こんな本もあります。「病が語る日本史」 著者 酒井シツ）

社会科担当 長澤和美